



教育学部

准教授 **八幡(谷口)彩子**さん(家政教育)

Yahata(Taniguchi) Ayako

## ●プロフィール

- 1985年 熊本高校卒業
- 1991年 お茶の水女子大学大学院家政学研究科修了  
県立鹿本農業高校勤務
- 1993年 尚綱短期大学家政科に勤務
- 1996年 熊本大学教育学部専任講師
- 1999年 熊本大学教育学部助教授

# 生きた家政学で働く女性をサポート。

## 家政学とは、実践的総合科学

家庭科と言えば食物や被服などモノを扱う教科という認識が一般的、男女ともに家庭科を学ぶようになった現在でも、その傾向は続いています。

高校教師の勧めでお茶の水女子大学家政学部へ進み、家庭経営学を専攻しました。「家政学」は、家庭生活を中心とした人間生活における人と環境との相互作用について、自然・社会・人文の諸科学を基盤にして研究する「実践的総合科学」です。

大学3年生の時、八幡さんは亀高京子先生と出会います。学外から非常勤講師としてお茶大にいられた先生ですが、この亀高先生の生き方と研究スタイルが八幡さんのそれからのロールモデルとなります。

## 翻訳家政書の研究で博士号を取得

1991年にお茶の水女子大学大学院家政学研究科を修了し、帰郷。県立鹿本農業高校、尚綱短期大学家政科で教鞭をとります。そして1996年6月から熊本大学教育学部へ。「3年で学位(博士)をとる」というのが採用時の条件だったそうです。「明治初期における翻訳家政書の研究」で、1999年に博士号を取得しました。

その後、結婚、出産を通して、八幡さんに変化が訪れます。妊娠中のつわりから始まってその後も体調不良が続き、思うように動けない状態に。

八幡さんには、現在小学生になる双子の女の子のお子さんがいらっしゃいます。この取材時にも一人のお子さんが入院中でしたが、子どものいる家庭では当たり前のこととはいえ、働く母親にとって、育児は時間との戦いといった側面を持つことは否定できません。しかしながら、職場結婚だという「夫の協力が大きかったです」と振り返ります。また、研究面でも、文学部出身の夫から学ぶところがあり、まさに生きた家政学を実践中です。

## 次世代の研究者育成のために

妊娠・出産に伴う体調不良を経験しながらも、八幡さんは「若手研究者が読む『家政学原論』2006」の編集に携わりました。同世代の女性研究者が力を合わせて執筆するのにほぼ10年かかりました。そして、2007年度の亀高学術出版賞を受賞されました。

また、女性研究者の多くは結婚しても子どもを持たないという状況です。ご自分の経験を生かし、熊本大学次世代育成支援キックオフシンポジウムでは「経験を通して子育て支援を考える」というコメントをされ、働く女性たちの力になりたいと考える日々です。



科学技術振興調整費(女性研究者支援モデル育成)による視察で  
母校お茶の水女子大学を訪れて